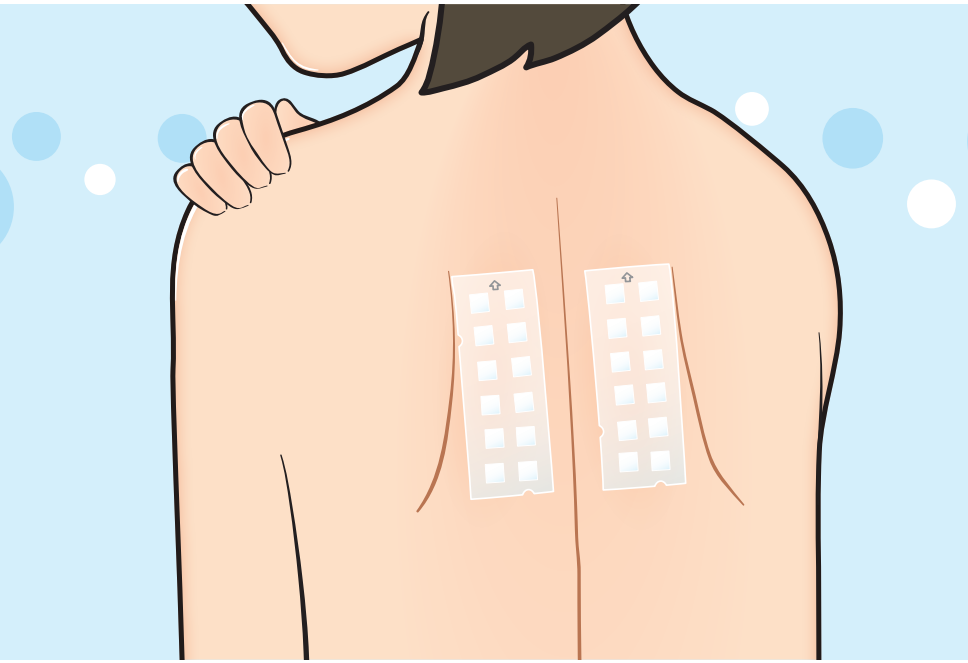
パッチテストパネル®(S)による検査をお受けになる患者さんへ



監修 関東 裕美 先生

元 東邦大学医学部 皮膚科学講座 客員教授/稲田堤ひふ科クリニック

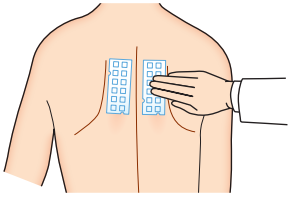
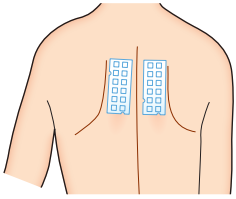
アレルギー性接触皮膚炎とは?

物質が頻回に皮膚に触れ、皮膚から吸収されることで生じるかゆみやヒリヒリ感を伴う湿疹（いわゆる「かぶれ」）のことをアレルギー性接触皮膚炎といいます。

この皮膚炎は、特定の物質（アレルゲン）が皮膚に触れた後、体がアレルギー反応を起こす体質になり（この状態を「感作（かんさ）される」と言います）、再度そのアレルゲンに触れることによって引き起こされる皮膚炎をいいます。また人によってアレルゲンは異なります。

現代社会では通常生活で繰り返し種々のアレルゲンが皮膚から吸収される機会があります。いつまでも、皮膚の赤みが続いたり、茶色く変色したり、治療をしているのに治らない時には身近に原因があるかもしれないと考えることも必要で、増悪因子となっているアレルゲンを見つけることが大切です。

パッチテスト予定

月　　日（　　）	月　　日（　　）
1日目 アレルゲンを貼る	**2日目**
日常生活上アレルギーが成立している可能性のあるアレルゲンを貼付します。 なるべく汗をかかない、窮屈な下着を着ない、ブラジャーははずすなどの注意をして検査が正確に行われるように協力してください。 	来院はせず、貼付したままでお過ごしください。 

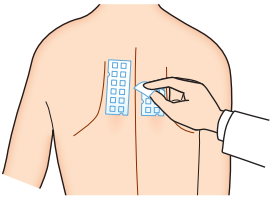
パッチテストとは?

皮膚炎の原因として皮膚に接触する化学物質、日用品、化粧品、薬剤、歯科金属、食物などが関係していないかどうかを調べる検査です。

パッチテストは背部等に種々のアレルゲンを貼り、以下のようなスケジュールにて経時的に反応を観察し、皮膚炎と何らかのアレルゲンが関係しているかを確認します。

本来は皮膚炎が治ってから原因確認を目的にパッチテストを行いますが、なかなか治らない皮膚炎の患者さんに実施することもあります。

パッチテストで思いがけないアレルゲンが判明することもあります。ご自身の生活で注意すべきものを明確にすることができますので、今後の皮膚炎予防にもつながります。

月　　日(　　)	月　　日(　　)	月　　日(　　)
3日目 結果判定(1回目)	4又は5日目 結果判定(2回目)	7〜8日目 結果判定(3回目) (必要に応じて医師が判断します。)
受診してアレルゲンを剥がします。剥がした影響が取れてから(30分〜1時間後)皮膚の反応を確認します。 	皮膚反応を確認します。判定結果の説明をします。 	

▶ 検査の際に注意していただきたいこと

- □ お薬を服用中の方は、主治医にご相談ください。
- □ 検査前日と検査中はテスト部位に塗り薬や化粧品を塗らないでください。
- □ 持参品の検査を希望される場合は、準備時間が必要ですので予めお声掛けください。
- □ 本剤を貼った後、入浴は避けてください。
- □ スポーツや激しい運動で汗をかかないようにしてください。
- □ テスト部位を締め付ける衣類の着用は避けてください。
- □ テスト部位に強いかゆみや水ぶくれを感じることがあります。掻きむしったり、勝手に本剤を剥がしたりせずに直ちに主治医へご連絡ください。
- □ 本剤を剥がしてから判定が終了するまでの間は、テスト部位への刺激を避けてください。

▶ ご了承いただきたいこと

- □ パッチテストの結果、疑われるアレルゲンに対して陽性反応を示した場合は、テスト部位の皮膚に軽い赤みやぶつぶつができることがあります。
- □ 陽性反応は20日後以降に出ることもあります。判定後、テスト部位に異常を感じたときは速やかに医師にご相談ください。
- □ 判定後、速やかに治療をしますが反応が強く出るとしばらく反応が残存することがあります。
- □ 一部のアレルゲンについて、テスト部位の皮膚が着色されることがあります。着色は2週間程持続することがあります。
- □ 本剤により新たなアレルゲンにアレルギー反応を起こすようになる（感作される）可能性があります。

佐藤製薬株式会社
東京都港区元赤坂1丁目5番27号

PT64HME
2023年2月作成